

責任者	経営戦略研究科長	作成部局	経営戦略研究科
-----	----------	------	---------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1-1 企業経営戦略コース】

(タイトル)
経営戦略専攻の教育研究目標

(狙い内容)

本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業経験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた課題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、ならびにその応用力を培うことを目指している。特に新卒者も入学者として受け入れることから、就業意識を高めるための実践的な教育も目標の一つとしている。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

将来の企業経営者・管理職になる高度専門職業人を養成する。グローバルな視点から活躍できる人材養成を促進する。また女性の社会的活躍を支援するための教育システムづくりに取り組み、地域医療や介護と連動した医療マネジメント人材、事業承継などを契機とした中小企業の経営革新に資する人材、独立起業・新規事業を創造する人材を養成する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	企業経営戦略コース定員の出願率の向上	評価尺度	A : 115%	変更有無
	<変更時記入欄>		B : 110%	
			C : 105%	有・無
			D : 103%	
			<変更時記入欄>	
			A :	
			B :	
			C :	
			D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D 103%	C 106%	C 108%	B 110%	B 112%	B 114%	A 115%	有・無
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 103%		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 111%					

【2016年度の進捗状況について】←

出願者数は72名(2015年度)から78名(2016年度)へ6名増加している。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか?

→ はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由: 6名の受験者増加を見たが、医療経営プログラムでの増加によるところが大きい。

②今後必要な取組み: 本来のマーケットである大企業30~40歳台の受験者数は減少しており、次年度以降は当初計画に沿って地道な学生募集を行う必要がある。

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。(A)
- ・ 改善が進んでいます。(D)
- ・ 企業経営戦略コースでは、ハッピーキャリア・リーダーコース、医療経営人材育成プログラムにおいて、入学者が増加していることが分かります。(E)
- ・ 企業経営戦略コースの入学者数は順調に推移しています。(F)
- ・ 内容のわかるタイトルの設定が求められます。
- ・ 出願者数の向上が入学者数の向上に繋がっているのかなどの分析が期待されます。(G)
- ・ 順調に進捗しています。(H)
- ・ 企業経営戦略コースの目標を社会の現状に合わせた妥当なものとなっていますので高く評価できると思います。また、設定された評価指標も適切であると考えます。(I)

【A票:教育研究目標1-2 国際経営コース】

(タイトル)
経営戦略専攻の教育研究目標

(狙い内容)

本専攻で養成される高度専門職業人には「高い職業倫理観を持ったグローバルに活躍できるビジネスパーソン」であることが求められる。そのために、科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力の養成を大きな柱としながら企業倫理に関する科目を必修としている。より具体的には、企業経営戦略コースでは、自らの就業経験を基にして、単なる理論の理解を目標とするのではなく、自らの業務に密接に結びついた問題の発見、解決能力を高めることが目標となる。国際経営コースでは、グローバルなビジネスシーンで活躍できる外国語能力とビジネスの知識、ならびにその応用力を培うことを目指している。特に新卒者も入学者として受け入れることから、就業意識を高めるための実践的な教育も目標の一つとしている。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

入学定員の充足

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

変更有無

評価指標	入学定員の充足率	評価尺度	A : 100% B : 90% C : 80% D : 67%	有・無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

変更有無

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
2015年度 (計画策定時)		D 67%	D 75%	C 80%	C 85%	B 90%	B 95%	A 100%	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績 C	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標>					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 67%		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 87%					

【2016年度の進捗状況について】 ←

期間限定の政府資金 (ABE initiative、Pacific-LEADS) による留学生を加えたベースでは定員を満たす状況となったが、これらを含まない正味のベースでは依然として定員割れが続いており、引き続き、定員確保の努力が必要である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい、いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 自己評価されているとおり、正味ベースの定員確保に向け努力されることが望まれます。(A)
- ・ 恒常的な入学者数の確保のため、さらなる改善が進められることが期待されます。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 国際経営コースでは、当初の2016年度目標を上回ってはいますが、入学者獲得について厳しい状況が窺えます。課題の抽出と今後の対応について十分な検討が望まれます。(E)
- ・ 経営戦略専攻の入学者数は、順調に推移しています。(F)
- ・ 内容のわかるタイトルの設定が求められます。
- ・ 入試説明会参加者の出願割合が0であることに関して、たとえば要因分析などなんらかのアクションが望まれます。(G)
- ・ 国際経営コースについて妥当な目標設定、評価指標設定であると思われます。(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
会計専門職専攻の教育研究目標

(狙い内容)
・建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成
本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)のスピリットを持ち、国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を持った職業会計人を養成する。
・国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成
会計に関する国際的な教育基準に従って、グローバルな視野をもった世界に貢献し得る職業会計人を養成する。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

- ・グローバルに活躍できる職業会計人の育成。
- ・社会人のリカレント教育の充実。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	英語での授業科目及び高度な実践的科目の受講割合 (=上記科目の受講者数/在籍者数)	評価尺度	A : 45% B : 35% C : 25% D : 16%	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		D 16%	D 20%	C 25%	C 30%	B 35%	B 40%	A 45%	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> D					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 履修者数が6名で、8.1%であった。		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 履修者予定数が13名で、 18.6%であった。					

【2016年度の進捗状況について】

2015年度は、履修者数6名、8.1%であったが、2016年度は、13名、18.6%になり増加(上昇)した。2016年度の数字は、現時点では履修変更の可能性もあり、確定した数字ではないが、仮に14名になれば、20.0%となり目標値を達成することになる。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・**いいえ**

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由: 18.6%とほぼ目標どおりにすすんでいるが、20%の目標値の達成までは至っていない。
- ②今後必要な取組み: 履修を薦めるべき受講生については、履修推奨するなどして努力をする予定である。

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ A票の変更に伴って、この目標は「教育研究目標2」とするのが適切です。(B)
- ・ 順調に進展しています。(D)
- ・ 2016年度は僅かに目標に届いていないようです。来年度は更に取組みを伸長させる目標値になっていますので、課題を明らかにして挽回できるよう引き続きご検討ください。(E)
- ・ 内容のわかるタイトルの設定が求められます。
- ・ 建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成と評価尺度や目標値の関係性について検討が期待されます。(G)
- ・ 目標の達成に向けたスケジュールは適切なものになっていると思います。(I)